

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程では、専攻の用意する様々な授業での学習や研究の経験を積み重ねた結果として、修了時に次のような力（知識、技能、態度）を身につけ、独創性ある研究者として自立して研究を行い、教育実践を指導する基盤となる実力を築いた人物に、博士（人間科学）の学位を授与します。

1. 教育学に関する幅広い視野及び該博にして精深な学識。
2. 研究倫理を有し、教育学における適切な研究方法に支えられた高度な研究能力。
3. 現代社会の教育学に関連する諸課題を自ら見出す力や探求心、多角的かつ批判的な思考力および問題解決力。
4. 教育と人間の発達・成長の支援に関する実証的な研究能力または教育の現場や国際協力活動、生涯学習などの分野で協働的に職務を遂行できる能力。
5. グローバル時代において自らの専門性に基づいて地域および国際社会に貢献することのできる柔軟な思考力と、的確で総合的な判断力。
6. 独自性のある研究成果を導き出し、それを精確に発信する力。
7. 多様な他者を尊重しつつ能動的に関わり協働する態度、および、専攻する学問分野の発展に寄与し、他の研究者と協働できる力。
8. 生涯にわたり、知的、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢。
9. 独創性ある研究者として自立して研究を行い、情報を発信する能力。
10. 大学、国際機関など社会において高度に専門的な業務を遂行し得る能力。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程では、少人数制の演習を重視し、学生による研究活動とこれに対する研究指導とをカリキュラムの中心に置いていきます。学界の研究水準を踏まえ、かつ独創性を育てるために、複数研究指導体制の下、先行研究を精査し、多角的な観点から問題意識を深化・発展させ、主体的に取り組むことを重視しています。

本専攻では、コースワーク科目として、「教育研究」領域の科目群を、3つの研究領域の柱を立て、多彩な特殊研究科目を設置しています。「教育実践研究」では、幼児教育および初等中等教育をめぐる諸問題等を扱います。「生涯学習研究」では、生涯学習の理論やシステムに関する研究を扱います。「国際教育研究」では、グローバルとローカルの双方向の視点から諸外国の教育制度・政策、国際教育協力等について扱います。上記の3つの研究領域が重複する研究課題の設定も可能です。また、演習形式の科目群として、「教育研究」領域の科目群の3つの研究領域の柱に対応して、「教育実践研究特殊演習1・2」「生涯学習研究特殊演習1・2」「国際教育研究特殊演習1・2」を用意し、自分の専門とする分野の演習を1年次に4単位履修することを定めています。

リサーチワーク科目として、「教育研究論文作成演習」を設置し、教育研究領域が定める博士論文の提出要件を計画的に達成し、博士論文の評価基準に適合した論文の作成が可能となるよう特に留意します。この演習科目は、全年次において履修または再履修可能ですが、修了要件単位には数えません。

指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とし、研究全般について適宜指導教員および副指導教員に相談できる体制を整えています。また、博士論文の中間発表では、当該専攻の全専任教員が参加し、指導助言を行います。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程 の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程では、教育研究領域における多様な研究関心と背景を持つ学生を受け入れるため、外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設けています。入学者受け入れにあたって、次のような点を重視します。

1. 人間の成長や社会の発展を支える教育および学習の在り方に対して強い研究意欲を持ち、博士前期課程修了程度の学識と研究能力を備えていること。
2. 教育学に関する独自性のある明確な研究課題を持ち、計画性をもって独創的な研究を進めることが期待でき、修了後は研究を通じ、または大学、国際機関などでの高度な業務を通じ、グローバル化する社会への貢献を目指していること。

なお、特色あるカリキュラムとして「教育実践研究」「生涯学習研究」「国際教育研究」の3研究領域を設定していますが、入学者募集においては区別をしていません。また、いずれの領域においても、外国人特別入試および社会人特別入試制度を設け、多様な研究関心と背景や経験を持つ学生の受け入れを積極的に行っています。教育分野の学問的探求を通して専門性を深めたい社会人および現職教員も歓迎します。

受け入れの判定については、外国語の試験では、専門分野の英語文献を読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識を測ると同時に構文の読解力、および日本語の文章力を評価します。また口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究計画を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていける人材かどうかとも判定します。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 人間科学専攻（心理学分野）博士後期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間科学専攻博士後期課程（心理学分野）では、「心理学基礎研究」領域と「発達臨床研究」領域での学習と研究を通して、人間を特定の限られた観点からではなく、幅広く統合的・学際的観点から把握しようとする研究姿勢と、時代の要求に答え得る知識・技術を習得した心理学および心理学的基礎を有するエキスパートの育成を目的としています。

人間科学専攻博士後期課程での講義・演習・研究を通し、人間のこころの働きやその仕組み、生涯発達の様相とメカニズム、こころの問題と支援方法に関する高度な専門的知識と研究能力を習得し、広い視野に立ち柔軟な思考と的確な判断力を持ち、多様化が進む現代社会に積極的に貢献することができる人材の育成を目指しています。具体的には、修了時には次のような資質を身につけていることを期待します。

1. 心理学および関連領域における幅広い知識と領域を俯瞰する広い視野に基づき、科学的、分析的思考力と的確な判断力を発揮して、変化を続ける現代社会の諸問題を見出す力。さらに、専攻する学問分野を中心とする精深な学識と技能を活かし、課題の解決を図る力。
2. 研究倫理、職業倫理を遵守し、大学院で培った高度な研究能力を継続発展させ、研究者・専門家として生涯にわたり知的、学問的探求を続ける謙虚な姿勢。
3. 専攻する学問分野の発展に寄与し、他の研究者・専門家とも連携し協働して社会の課題解決に貢献し、得られた知見を積極的に社会に還元する発信力。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

人間科学専攻博士後期課程（心理学分野）では、「心理学基礎研究」領域と「発達臨床研究」領域において、エキスパートの育成を目指し、体系的で精深な学識を養うためのコースワークと、高度な科学的、実証的研究を遂行する能力を養うためのリサーチワークの両者から成るカリキュラムを編成しています。

心理学分野の博士後期課程では、人間の基礎的な心理学的機序と、その応用領域とも言える発達・教育およびそれらへの臨床的介入に関する学習・研究を、コースワーク科目（「知覚心理学特殊研究」「認知心理学特殊研究」「発達心理学特殊研究Ⅰ」など）においてバランス良く学び、基礎的・応用的な研究能力を培い、最終目標である学位論文の作成を目指します。特に演習科目（「知覚心理学特殊演習」「発達心理学特殊演習Ⅰ」など）では、内外の独創性が高い研究、質のよい論文などを学びながら、国内外の最新の研究動向をふまえ、各自の研究を吟味し、目指す研究の意義を検討します。そしてリサーチワーク科目では、学位論文を構成する主たる研究について指導教員・副指導教員より学会発表・雑誌論文の作成などの指導を受けることにより、将来自立した研究者として独創的な研究を展開していく能力を育成します。

「心理学基礎研究」領域では、身体内外からの種々の情報を抽出する感覚・知覚の機能と学習・記憶などの高次認知処理機能、さらにはそれらの障害状況などについて、その神経生理学的基盤も考慮に入れ、最新の知見・方法論に基づいて基礎的・応用的研究を展開していきます。

「発達臨床研究」領域では、乳児から高齢者に至る生涯発達の視点に立ち、人間の発達や教育の心理学的原理および発達・教育上の諸問題・障害、さらにはそれらに対する臨床的介入・援助などについて、基礎的・応用的研究を進めていきます。

いずれの領域においても、発展性に富み、将来にわたり学界に貢献する学位論文の作成を目指します。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 人間科学専攻（心理学分野）博士後期課程の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

人間科学専攻博士後期課程（心理学分野）では、高いレベルの学識と能力を持ち、豊かな人間性と高い倫理性を備えていることを前提とし、国際化された社会の中で、専門的な職業において活躍し貢献することを、意欲的に目指している方を受け入れます。

人間科学専攻博士後期課程心理学分野では、専門的に学んだ内容と経験を将来の心理実践や研究活動に活かすことを目指し、自らの問題意識を学問的、社会的に意義深い実証的研究に昇華させる力のある学生を受け入れます。進学を希望する学生には、科学的な研究方法を深く理解し、心理学全般と近接領域の知識に加え、特に認知心理学、発達心理学、臨床心理学の幅広い概念と理論に精通しており、博士前期または修士課程で学んだ内容に基づき学位論文研究を発展的に組み立てていく見通しを明確にもっていることが望まれます。

受け入れの判定については、外国語（英語）の試験では、専門分野の英語文献を正確に読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識、研究計画や分析方法も含めた専門的知識を測ると同時に、構文の読解力および日本語の文章力を評価します。口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶために必要なコミュニケーション力を備えている人材かどうかを判定します。